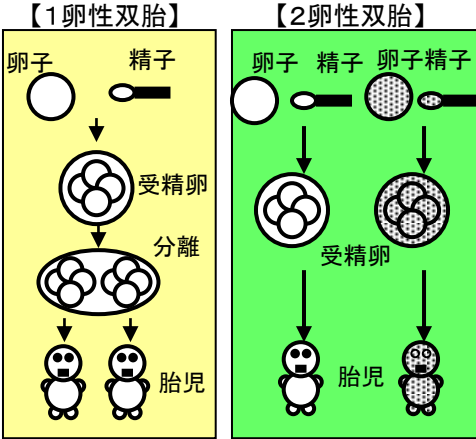


つ ツインだがダブルもあるよ双子ちゃん

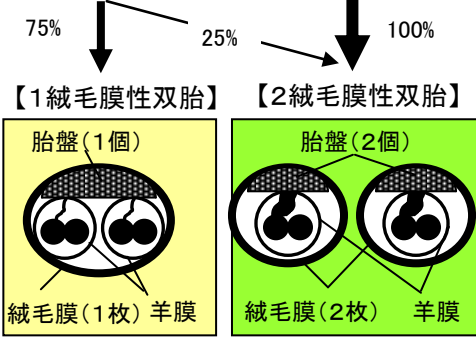
《双胎妊娠》

双胎(双子)を英語でツイン(twin)と言います。ホテルのツイン・ルームのツインです。双胎には2通りの卵生すなわち1卵性と2卵性があります。1卵性は1つの受精卵が2つに分離したもので、2人は全く同じ遺伝子を持ちます。2卵性は2つの卵子が排卵してそれぞれに精子が受精したもので、2人は普通の兄弟と同じ関係です(図)。



双胎には膜性とよばれる構造上の区別もあります。胎盤およびこれに連なる絨毛膜が1組で、その中に2人の子がいるのを1絨毛膜性双胎といいます。絨毛膜の内側にある羊膜は大抵2枚あって、2人は別々の羊膜に包まれています。

1(mono)絨毛膜、2(di)羊膜なので、MD双胎ともいいます。一方、それぞれの子が自分の胎盤および絨毛膜を持っているのが2絨毛膜性双胎です。当然その



内側の羊膜も2枚であり、DD双胎ともいわれます。先のホテルの例でいうと、ツイン・ルームにふさわしいのは2絨毛膜性の方です。1絨毛膜性は同じベッドを共有するダブル・ルームという感じです。

1・2卵性(卵性)と1・2絨毛膜性(膜性)はどういう関係になっているのでしょうか。まず2卵性の双子は原則100%2絨毛膜性になります。1卵性では75%は1絨毛膜性となりますが、2児の分離が早期に起こった場合には2絨毛膜性となり、25%が該当します。ですから1絨毛膜性双胎をみた場合必ず1卵性と言えますが、2絨毛膜性では、異性ならもちろん2卵性ですが、同性なら1卵生もありうるわけです。卵生の診断は次の2つの質問で可能です。1つは1歳頃「うりふたつ」のように似ていたか、もう1つは双子が誰かに間違われたかです。「うりふたつ」で親戚や近所の人にも間違われたらほぼ1卵性といえます。親が間違ったらもう絶対1卵生です。

当院で出産した390組の双胎のうち、1絨毛膜性(MD)が69組、2絨毛膜性(DD)が321組でした。その性別(第1子、第2子の順)をみてみますと、MD双胎は必ず1卵性ですので、当然全例同性(男男が32組、女女が37組)でした。一方DD双胎は、同性が189組(男男が100組、女女が89組)で異性が132組(男女が56組、女男が76組)と、同性が多くみられました。もしDD双胎がすべて2卵性なら同性の双胎と異性の双胎がほぼ同数になるはずですが。同性が多いのはDD双胎の中に1卵性が含まれているからで、計算上DD双胎の約18%は1卵性となります。

ね 年齢が上でも妊娠できちゃ勝ち

《高齢出産》

35才以上の出産を「高齢出産」と言います。高齢出産では妊娠高血圧症候群の発生率が高く、糖尿病などの内科的疾患や子宮筋腫等が合併している場合も多くなり、お産も難産傾向があり、ダウン症の率も上がるなど、問題があることは間違いありません。

しかし「高齢出産」という言葉があまりに有名なためか、大事なことが忘れられていると思います。高齢で最も不利なことは、1に妊娠しにくいこと、2に流産しやすいことで、3、4がなく、5以下が上記の問題なのです。それらは慎重な産科的管理によって多くは克服可能ですし、ダウン症も40才でようやく1%弱にすぎず、どうしても心配なら検査もできるわけです。

これに対して1.妊娠しにくい、2.流産が多いは、若い人との差が決定的で、やっとのことで妊娠しても流産して悔しい思いをすることも少なからずあります(いろはかるたの「ろ」の項参照)。ですから40才の方でも、妊娠できて妊娠4ヶ月に入って流産の心配がなくなった時点で、ほとんど勝ったも同然も考えてよいでしょう。

出産に関しても、例えば40歳前後でも体がしなやかで安産の方もおり、20代でも小太りですと難産になるケースもあるなど、年齢差とともに個人差も重要で、あまり年令のレッテルを貼りすぎない方が良いでしょう。むしろわづかながら、高齢にもメリットがあります。まず子宮口が硬くて開きにくいので、自然の早産は少ない傾向があります。さらに高齢の方は女ができていて出産時冷静な場合が多く、その後の子育ても人生経験を活かせるなどです。

これまでの当院の出産の最高齢はAさん、何と50才でした。1人の女性が生涯に何人の子を産むかという合計特殊出生率の算出は15~49歳の女性が対象なので、Aさんの出産は出生率にカウントされないこととなります。まずダウン症が心配されました。この年齢では詳細なデータがありませんが、発生率は10%以上と考えられます。Aさんは授かったかけがえのない命を必ず大切に育てると決心し、羊水検査は行いませんでした。赤ちゃんは2800グラムの正常な男の子でした(写真)。高齢に多い産後の血栓症などの合併症も種々の対策で乗り切りました。

Aさんがすごいのは、そのお年だけではありません。実は今回の妊娠前に5回もの自然流産を経験されているのです。6回目も自然に妊娠



が成立し、何の治療もすることなく初めて流産も乗り越えました。その昔(754年)、鑑真和上が6度目の渡航で日本に到達した故事が思い起こされます。Aさんの出産は、妊婦さんはもちろん、私たちお産に携わる者をも勇気づけてくれる貴重なものでした。